

即興型ディベート

研究報告集

Research Report of PDA Conferences

オンライン開催

2022年8月5日（金）



一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会

Parliamentary Debate Personnel Development Association (PDA)

目次

【即興型ディベート研究報告集】

はじめに ～「論理・表現」がスタート！即興型英語ディベートの活用～
大阪公立大学／一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 中川智皓

No.1 岩手県立一関第一高等学校即興型ディベート研究報告書
岩手県立一関第一高等学校 熱海 千乃 教諭

No.2 私立東海高等学校研究報告書
私立東海高等学校 大矢 梨紗子 教諭

はじめに

～「論理・表現」がスタート！即興型英語ディベートの活用～

大阪公立大学 工学研究科 中川智皓

(一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA) 代表理事)

今年度で9回目となる夏合宿は、例年の高校生・教員に加え、中学生も参加可能とし、PDA全国中学校・高校 即興型英語ディベート合宿・大会2022として、オンラインでの開催となりました。昨今、小学校における英語教育も少しずつ発展してきており、即興型英語ディベートに興味を持つ中学校が増えてきています。PDAでは毎年3月に中学生の全国大会を開催しており、参加校が増加している状況です。

さて、今年度から英語科にて新科目「論理・表現Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」が始まりました。文部科学省学習指導要領には、当該科目においての活動の一つとして、ディベートが明記されています。PDAでの体験会や合宿、大会で取り扱っている即興型英語ディベートは50分（1単位）で完結する形式で設計されており、早速上記授業においても活用された報告が寄せられています。教育委員会や各地域での英語部会における教員研修にも本PDAのフォーマットが取り入れられています。授業導入においては、各校の特性に合わせた配慮が考えられますが、ゲームの特性を活かした本ディベートの実践形式には生徒のモチベーションを上げる性質があるため、勇気を持って挑戦されますことを期待しています。「論理・表現」では、その名の通り、英語の知識だけではなく、論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことが目標となっています。ディベートではまさに主張する際に、理由や例を含めて説得的に詳しく述べることが求められます。この点においては、英語科の教員も新しく学ばねばならない部分もあるかと思えます。本合宿がその一助となりましたら幸いです。

また、「論理・表現」の科目にも示されるようこれからは英語力のみではなく、“英語力+内容”を評価する時代になると考えられます。PDAでは、英語力に加え、内容を評価するパラメンタリーディベート検定[®]（PD検定[®]）を実施します。本年は参加者の皆様に当該検定のホームページをご覧くださいできるようにしています。PD検定[®]では、実際にディベートの実践を行い、内容と表現の両面からスコアが導出されます。スコアに応じたPDレベルを設定しています。PDレベルは論理的表現力となりますが、言語運用動力であるCEFRとの対応も参考に示しています。さらに、スコアやPDレベルの結果表示に終わるのではなく、今後の学習につながるよう、スピーチのよかった点・改善点をコメントしています。普段の学習の成果を測る一つの指標また今後の学習アドバイスとして、広く活用されることを願っています。

謝辞 公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団、文部科学省、大阪公立大学ほか、多くのご支援をいただきました。ここに感謝の意を表します。

※ここでは、パラメンタリーディベートを通常授業（50分）に導入できる形式にアレンジしたものを、なじみやすい・理解しやすい表現として、即興型英語ディベートと呼んでいます。

日本の一般的な生徒が実施できる形式に、「システム」として落とし込んだ点が特長です。ルールやスピーチシートをはじめとする考案したシステムは、単に一般的なパラメンタリーディベートを簡素化したという位置づけではなく、議論の仕組みを整理し、教育的効果を高めるためのデザインが組み込まれています[1]。[1] 中川智皓、山内克哉、新谷篤彦、パラメンタリーディベート（即興型英語ディベート）における議論の整理と評価の一考察、システム制御情報学会誌、Vol.32, No.12, (2019), pp.446-

即興型ディベート研究報告

熱海 千乃

岩手県立一関第一高等学校

(1)はじめに

本校は、岩手県内唯一の公立中高一貫校であり、併設されて14年目を迎える。中高ともに、授業でディベートを取り上げ、毎年2月には中学3年生と高校2年生の交流ディベートを開催している。

(2)実践内容

○中学3年次：準備型のフォーマットを利用。立論と反論のみの簡易ディベートを体験する。

○高校1年次：準備型と即興型のフォーマットを利用。前期でディベートの基本を学習し、後期より身近な論題を取り上げ本格的にディベートに取り組む。

特に前半では、「論理的思考」や「立論の立て方」などを中心に、1・2週間に1回程度実施する。

○高校2年次：PDA即興型のフォーマットを利用。社会的な論題に取り組む。簡単な英字新聞記事などを利用しながら、社会的問題に関してディベートを行えるようにシフトしていく。知識背景の涵養も目的としており、将来の小論文や面接などにも対応する力が養えると考ええる。

○中高交流ディベート：例年2月25日に中高交流ディベートを実施している。高校2年生と中学3年生合同で実施し、中高生でチームを作ることになる。グループ分けには細心の注意を払い、中学校教員とも相談しながら、生徒の個性や英語力に応じて満足した試合が行えるようチーム編成を工夫する。50分間の授業内で完結するように、準備時間15分、スピーチ時間一人3分（計18分）、振り返り（10分）を目安としてディベートを行っている。※昨年度はコロナにより未実施

○モデルディベート：本校には英語研究部があり、英語ディベートに取り組んでいる。授業では、英語研究部員によるモデルディベートを見せる機会を設けている。実際のハイレベルな試合を見て、一人一人の生徒がジャッジを経験することで、ディベートに対する興味・関心や意欲を引き出す。結果は、フォームズを使って即座に送信してもらい、結果を共有している。

(3)まとめ

来年度からカリキュラムの中に本格的にディベートが導入されるにあたり、今年度中に中学3年から高校3年までを見通した英語ディベートの年間計画を作っていきたいと考えている。新課程も導入され、年次計画で組み立てていきたい。特に中高交流ディベートやモデルディベートは、終了後のアンケートでの満足度は高い。高校生からは「もっと語彙や知識を増やしたい」、中学生からは「高校生のように話せるようになりたい」など前向きな感想が多い。高校生が中学生に対して、積極的に話しかけ意見を吸い上げようとする姿勢や、話すべき内容を丁寧に教えている姿もあり、相互に良い学び合いを深められる良い機会でもある。

【参考文献】「授業でできる即興型英語ディベート」（中川智皓著）、「ディベートを導入した授業実践～発表力・考える力をつけるための指導ステップ～（DVD）」（ジャパンライム）など

即興型ディベート研究報告

大矢 梨紗子
私立東海高等学校

(1)はじめに

このたび、即興型英語ディベート合宿・大会に参加させていただくにあたり、本校の授業において自身が行っているディベートにまつわる実践・計画について報告をする。新学習指導要領で新しく始まった高校1年生「論理・表現Ⅰ」では、「主体的・対話的で深い学び」の実践が求められている。これは、従来の読解中心の英語学習に加えて、生徒側の「対話」・「発表」・「エッセイ」などのアウトプットがより一層求められるものだが、高校1年生の英語力にはまだまだ制限が多く、「英語で自由に発話をする」というのは、生徒にとってなかなかハードルが高いのが現状である。そこで、まずは挨拶からのペアワークから始め、1分間スピーチ、そして即興型英語ディベートの枠組みを使って徐々に難易度をあげながら、スピーキングを導入することを考えた。

(2)実践内容

授業：高校1年生「英語コミュニケーションⅠ／論理表現Ⅰ」（週4回）

対象生徒：40名（男子）

①新学期の初回の授業：教師の自己紹介。（1分間スピーチ）

→3つの「事実」のうち「嘘の事実」がひとつあります。と言って生徒に考えさせる。

→ペアワークで生徒間でも1分間の自己紹介（「1つの嘘」を含む）を行う。

②毎回の授業冒頭（10分間）：“Let’s have a chat!!”の時間を設けてペアで各自1分ずつ話す。

これを4～5月2ヶ月ほど行った。生徒の反応は思っていたより良く、教科書の解説が始まると寝てしまいそうな生徒も、友達と楽しそうに話しているのが印象的だった。時間内に全ての生徒の様子を見て回れなかったのが反省点である。ペアワークの後は代表生徒にクラスの前で発表してもらおう機会も作った。

The image shows two slides for a classroom activity titled "Let's have a chat!!".

Slide 1: Today's topic: My Family

A: Let me introduce my [sister/ brother/ mother/ father]. Her[His] name is ○○

B: What is [she/he] like?

A: She[He] is _____ (状態を表す形容詞)

B: What does [she/he] like to do?

A: She[he] likes to _____.

B: When is [her/his] birthday?

A: Her[His] birthday is _____.

Visuals: A red silhouette of the Statue of Liberty, a speech bubble saying "Are you ready?", and another saying "Time is up!".

Slide 2: Today's topic: My hometown

A: I live in ○○.[Higashi ward/ Toyota city]

B: How long does it take to get there?

A: It takes _____ by _____ (手段).

B: What is _____ like?

A: It is _____ (状態を表す形容詞 small/big/busy/quiet ...).

B: Where do you recommend in your hometown?

A: You should visit/eat/ buy...(おススメのお店、公園など).

Visuals: A red silhouette of the Statue of Liberty, a speech bubble saying "Are you ready?", and another saying "Time is up!".

図1：“Let’s have a chat!!” 黒板に投影したスライド（1）

③「AREA を意識したスピーチ」の導入：ペアでの発話に慣れてきた頃、自分のスピーチにおいて、A：Assertion, R: Reason, E: Example/Explain, A: Assertion”を意識させるようなトピックを使用した。

Let's have a chat!! Today's topic: Domestic or international travel?

A: Would you like to travel domestically or internationally?
 B: I would like to travel [domestically/ abroad] **A 主張**
 A: Why?
 B: This is because _____ **R 理由**
 B: For example, I would like to go _____ **E 具体例**
 B: So, I would love to travel [domestically / abroad]. **A まとめ**

Are you ready? Time is up!

Let's have a chat!! Today's topic: Space travel

A: Do you want to travel in space? **A 主張**
 B: Yes/No. I would like [would not like] to travel in space.
 A: Why?
 B: This is because _____ **R 理由**
 B: If I travel in space, _____ (宇宙旅行のメリット・デメリット) **E 具体例**
 B: So, I would love to [would not like to] travel in space. **A まとめ**

Are you ready? Time is up!

図1：“Let's have a chat!!” 黒板に投影したスライド（2）

④ディベートの導入（1）：日本語でイントロダクションを行う。最低限知っておくべき知識のみを伝える。あくまでの授業の一貫として行うディベートなので、ディベートについて深く知るよりも、興味を持ってもらうのが目的である。

ディベートとは？
 説得力を持ったスピーチをして、ジャッジを納得させるゲームである

(例)

〇〇はxxをするべきである

プロ側が演説します。3分で説明します。 持定側
 反対側が演説します。2分で説明します。 否定側

テーマ実行によるメリットとデメリットを提示して、立場を明確にする

シャッフル!

〇〇のほうがいい説得力があります

図3：「ディベートとは」 黒板に投影したスライド

④ディベートの導入（2）：“Let's Debate” ゲーム形式でディベートを実践する。それぞれのスピーチの枠組みを黒板に投影し、発話しやすいように促した。

Let's try debate!! (共学)

Motion: Tokai High School should be co-educated.

① ジャンケンをしめます。勝った人が賛成側、負けた人が否定側になります。
 ② この論題に関して自分の役割に応じて相手を説得して下さい。時間は1分です。
 ③ 相手の発言に対して何も言い返せなかったり、5秒間以上沈黙してしまった方が負けです。2人とも英語ですつと話し続けることが出来れば、引き分けです。

1. I believe Tokai High School should be co-educated.
 2. The reason is ...
 3. For example, ...
 4. For these reasons, Tokai High School should be co-educated.

図3：“Let's try debate!!” 黒板に投影したスライド

(3) まとめ

まだまだ手探りではあるが、これまでのところ生徒は前向きに参加してくれているので、この調子で2学期以降も続けていきたいと思う。授業内でのスピーキングは、クラスの雰囲気によって参加のしやすさがかなり変わってくるので、教師対生徒の関係性も重要であると感じる。生徒が発話したいと思えるよう、トピックの選び方や枠組みの作り方なども工夫していきたい。今回参加させていただく PDA 夏合宿においても、多くの知見を得られればと思っている。

(3) まとめ

得られた知見を簡潔に示す。また、あれば今後の課題や予定を示す。箇条書きでもよい。

即興型ディベート研究報告集 PDA22-1

発行日 2022年8月5日

発行所 一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会

大阪府堺市中区学園町1-1 大阪公立大学 工学研究科 機械工学分野 中川研究室内